

なくてはならない 国民保護

消防団・自主防災組織の
みなさんへ



写真：鳥取県国民保護訓練で活動する三朝町消防団員

消防団員のみなさんへ

◎大規模なテロや武力攻撃が発生したとき、消防団のみなさんは、攻撃による危険がなく、安全が確保されたなかで、次のような活動を行います。

1 消防団は、警報や避難方法を住民へ伝達します。



2 消防団は、市町村職員や消防職員と協力し、地域とのつながりを活かした避難住民の誘導を行います。



3 消防団は、災害への対処などを行います。

(活動例)

- 消火活動などの災害の防御
- 消防警戒区域の設定
- 常備消防の活動支援
- 負傷者の応急手当
- 被災情報の収集 など



※1 武力攻撃とは、日本に対する外部からの攻撃をいいます。

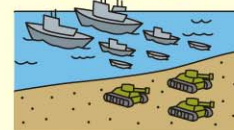
○ 弾道ミサイル攻撃



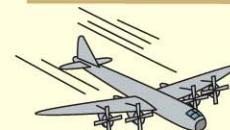
○ ゲリラ・特殊部隊による攻撃



○ 着上陸侵攻



○ 航空攻撃



※2活動に当たっては、消防本部などとの連絡を密にして危険情報の入手に努めてください。



このマークは、国民の保護のための措置を行う人や車両などを識別するための国際的な特殊標章です。

FDMA
住民とともに

総務省消防庁

Fire and Disaster Management Agency

<http://www.fdma.go.jp/>

訓練のポイント

防災訓練なども含め様々な機会を通じていざという時のために備えておきましょう。

ポイント1 【避難】

避難所の把握をはじめ、いざというときの避難の要領や携行する物品などについて確認します。家族と連絡がとれない場合の連絡方法などを話し合っておくことも大切です。



ポイント2 【応急手当】

負傷者への応急手当、止血、人工呼吸や臨時的医療施設の開設などを訓練します。これは、家族がケガをしたときにも役立ちます。

ポイント3 【救援】

避難所の開設、炊き出し、生活必需品の配布など避難所での避難住民の生活を円滑にするための訓練を行います。

国民保護についてもっと知りたい方は [国民保護ポータルサイト](http://www.kokuminhogo.go.jp/)

<http://www.kokuminhogo.go.jp/>

にアクセスしてください。

自主防災組織リーダーのみなさんへ

◎大規模なテロや武力攻撃は、あつてはならないことですが、万一、発生したとき住民にとっていただきたい行動は、下図のとおりです。自主防災組織リーダーのみなさんは、国などが出す警報や避難の指示に従い、落ち着いて行動するよう呼び掛けましょう。

警報が出たら？

- サイレンや防災無線の放送内容の確認
- テレビやラジオからの情報収集



避難の指示が出たら？

- 避難先、避難方法、携行品や戸締まりの確認

事案に応じた避難の方法

- ・弾道ミサイル攻撃の場合は、当初は近隣の堅牢な建物や地下街などの屋内へ避難し、行政機関からの指示を待ちます。
- ・ゲリラや特殊部隊による攻撃の場合は、当初は一旦屋内に避難し、その後状況に応じ行政機関からの指示に従い避難します。



自主防災組織やボランティアに期待されること

阪神・淡路大震災では、自主防災組織やボランティアの役割の重要性が強く認識されました。こうした自主的な防災活動は、武力攻撃による災害が発生した場合においても、同様に期待されるものです。

- 避難住民の誘導への協力
避難用バスへの誘導など



- 救援への協力
避難所での救援物資の配布や炊き出しなど



- 消火、負傷者の搬送、被災者の救助への協力
負傷者の搬送、応急手当など



- 保健衛生の確保への協力
健康相談所の開設支援など



最近発生したテロ事案など

- 地下鉄サリン事件('95.3.20) 地下鉄車内にオウム真理教信者が猛毒のサリンを散布し、死者12名などを出した事件
- 弾道ミサイル発射事件('98.8.31) 北朝鮮により日本の上空を飛び越える形で弾道ミサイルが発射された事件
- 日本近海での不審船事件('01.12.22) 不審船が日本領海から逃走し九州南西海域で自爆・沈没した事件。後に北朝鮮の工作船と判明
- ロンドン同時爆破事件('05.7.7) ○スペイン同時多発列車爆破事件('04.3.11) ○米国同時多発テロ事件('01.9.11)